自己進化を続ける SBIグループの人材

最も重要な戦略的資源である人材

大川 幸夫
SBIホールディングス 総務人事部長

SBIグループの企業価値を向上させる礎は人材です。人こそが創造性の源泉であり、競争力の源泉である差別化をもたらす主因であると捉えています。当社は人材確保に向けて即戦力である中途社員の採用に加えて新卒採用を2006年より開始し、これまでに350名以上を採用してきました。その中には既にグループ会社の役員に抜擢された者や、それぞれの所属先において中堅社員として大いに活躍している者もおり、SBIの企業文化・風土の醸成・継承の担い手として大きな役割を果たしています。

また、人材の多様性の推進にも注力しています。グローバルにビジネスを展開する当社グループにとっては、採用において性差だけでなく国籍も関係ありません。新卒採用においても本社の勤務要員として3年前から中国、韓国、ベトナムにおいて現地での採用活動を開始するなど、人材の多様化が進んでいます。

そして、人材価値を向上させていく上で重要なテーマは人材育成です。当社は2010年3月期からSBIグループが運営を全面支援しているSBI大学院大学のMBAコースへの企業派遣制度を設けており、多くのSBIグループ社員がマネジメントを担う上で必要な素養を身につける学びの場として活用しています。自身が所属する部署のみを近視眼的に見るのではなく、グループ全体の相乗効果も視野に入れた取り組みを行えるよう、継続的に研修を実施するなど、当社の企業文化を理解し、実践できる有為な人材の育成にも努めています。

ここではSBIグループにおける企業文化のDNAを持ち、日々挑戦し続けているSBIグループの人材9名に企業風土や経験、将来の抱負について聞きました。

Voice 01

濱 和之
SBIホールディングス 海外事業管理部

希望のキャリアを自ら選択

私は主に証券・M&Aの分野で複数の企業を経験した後、SBI証券に入社しました。株式やデリバティブのサービス開発を担当した後、キャリアオープン制度※を使ってSBIホールディングスに転籍しました。グループの中核企業であるSBI証券で培ったノウハウが海外でも通用するのか試してみたいと思い、海外事業管理部の社内公募に手を上げたのです。引き続き国内の成功モデルを海外にも波及させるというグループ方針を実行するとともに、自身の実現したいキャリアに一歩も二歩も近づいていきたいです。

※グループ会社の社内公募に応募し異動する制度

Voice 02

尹 慈明
SBIホールディングス 社長室

先進的な企業で個の能力を高める

SBIグループは目利き力や先見性を活かし、最先端企業に投資をする時代を切り拓くリーダーというイメージを持って入社しました。入社当初はSBIインベストメントに所属しており、FinTechという言葉が一般化する数年前から世界のFinTechベンチャー企業等とコンタクトを取り、新技術に触れる毎日でした。現在はSBIホールディングスの社長室に所属し、経営陣のサポートやグループ会社の社員と連携する場面が多く、従来と違った角度からSBIグループを見ていますが、日々、新たな刺激を受け、個人としての成長を実感しています。

Voice 03

奥山 真史
SBIホールディングス 法務コンプライアンス部

チームで壁を乗り越える

SBIグループにはチャレンジングな機会が多くあり、他の企業以上に短期間で次々に大きな案件を任されることで個人が成長する機会が多い企業だと思います。また年功序列ではなく成果に応じて平等に評価される一方で、儒教的な価値観もバランスよく存在しているのも特長です。私に求められてきたのはスペシャリストとしての役割ですが、一人でできることには限界があります。これからはチームの成果を最大化できるよう、メンバーを引き立たせる役割も担い、今まで以上の成果を上げていきたいと思っています。

Voice 04

戴 鵬飛

SBI証券 レンディング部

人種や国籍を超えたフラットな職場環境

北尾社長が中国人以上に中国文化を熟知していたこともあり、グローバル採用でも入社前の不安はありませんでした。入社後も、待遇面や職場環境で国籍の差を感じることは少なく、働きやすい環境です。SBI証券では株券貸借取引を行うレンディング部の立ち上げに携わることになりました。最初はどういった役割を担う部署なのかも理解していない状態からのスタートでしたが、自らの努力の成果を数値として把握できる業務なので、今では自分の成長が事業の成長や利益につながっていることを実感しています。

Voice 05

稲葉 優介

SBIホールディングス イスラエル駐在

海外で新たなマーケットを切り拓く

私は若手でも幅広い業務に携われる海外勤務を通じ、多くの経験を積むことができました。例えばアブダビでは国際色豊かな投資プロフェッショナル達とチームを組み、タイではベンチャー企業の発掘などを通じてネットワークを拡げ、投資活動を行いました。特に海外では、私個人が成果を出さなければ、パートナー企業に全く認められませんが、一度良好な関係を築くと非常に面白い仕事ができるようになります。責任は大きいですが、SBIグループの各海外拠点間で悩みや課題を共有できるのは心強かったです。

Voice 06

竹内 鮎美

SBIホールディングス コーポレート・コミュニケーション部

自ら学びたいと手を挙げる人材をサポート

SBIは新しいことに挑戦し続ける企業です。そのため社員は常に新しいことを学び、インプットし続ける必要があります。私は広報を担当しており、入社当時から仕事で携わる領域や、コミュニケーションの幅などを広げる必要性を感じていたこともあり、会社の補助を受けてSBI大学院大学でのMBA取得を決意しました。SBI大学院大学は将来の幹部候補を育てる意味もありますが、グループ外の経営者等とも一緒に学ぶため様々な刺激を受けられる場であり、自ら学びたいと思うグループ社員を応援してくれる恵まれた環境だと思います。

Voice 07

古屋 翼

SBI Ripple Asia 事業企画部

テクノロジーが世界を変えることを実感

入社3年目にSBI Ripple Asiaの立ち上げに参加し、以降は先進技術で社会インフラを構築するという時代の転換期を目の当たりにしています。習得すべき知識も多く、緊張感のある日々ですが、自分が成長するためには最適な環境です。以前は、グループ内の他会社に所属していましたが、常に求められるのは自発的に行動することでした。しかし、上司や仲間からのサポートを受けられるのはどの部署でも共通している風土です。こういった風土だからこそSBIはスピード感を持って常に新しい挑戦ができるのだと思います。

Voice 08

佐藤 肇

SBI CoVenture Asset Management 代表取締役 兼
SBIオルタナティブ・インベストメンツ 取締役 兼
SBIボンド・インベストメント・マネジメント 業務管理部・ファンド管理部

キャリアや年齢に関係なく挑戦できる

中途採用でSBIグループに入社し、他の企業であれば私の年齢では経験できないような主導的な立場で、世界最大級の債券運用会社PIMCO（ピムコ）社との合弁会社設立などのプロジェクトに携わってきました。最近ではSBIグループが推進する地方創生プロジェクトの一環としてSBI地方創生アセットマネジメントを地域金融機関と共同で設立したほか、仮想通貨関連の仕事にも携わっています。伝統的な金融機関の枠を超えた事業展開や経営陣に近い立場で経験が積め、その意思決定のプロセスに携われることは魅力だと感じています。

Voice 09

清水 章充

SBIバーチャル・カレンシーズ マーケティング部

投資先企業への出向を通じて専門性を向上

入社後に配属されたSBI証券のコールセンターで証券の基本的な知識を身に着けた後、同マーケティング部や商品開発部で、取引ツールや既存サービスの機能改善等に携わりました。その後、SBIグループの投資先でビッグデータの分析技術を手がける（株）ギックスに1年間出向して、分析ノウハウを学び、現在はSBIバーチャル・カレンシーズで仮想通貨に関する業務を担当しています。グループ企業だけでなく、投資先企業でも知識や専門性を高めていくことができるのはSBIグループだからこそだと思います。